

蓼沼謙一先生著作目録

一九五〇年から一九八七年までの著作を、著書、編著、論文、判例研究、書評、座談会、その他に大別した。対談、討論、シンポジウムは「座談会」に含め、随筆、提言、アンケート回答等を「その他」とした。

(中村和夫、石井保雄、藤原稔弘)

一九五〇年(昭和二十五年)

- 論文 「ロックアウトの正当性の問題について」労働法律旬報四一号(二月)
- 書評 「テラア『ビケッティングと言論の自由』」一橋論叢二三卷四号(四月)
- 座談会 「一橋法学の七十五年」一橋論叢二四卷四号(一月)

一九五一年(昭和二十六年)

- 論文 「罷業権の生成過程」私法五号(一月)
- 書評 「チェンバレン『団体交渉と契約概念』」一橋論叢二五卷六号(六月)
- 判例研究 「ロックアウト—日本セメント事件」季刊労働法一号(六月)
- その他 「労働法学会(学会日より)」法律時報二三卷六号(六月)

一九五二年(昭和二十七年)

- 論文 「米国における労働協約法理」比較法研究四号(七月)
- 「罷業権の生成過程」一橋大学法学会編『現代法学の諸問題』(勁草書房)(四月)
- 「沼田稲次郎著『団結権擁護論』(上・下)」法律時報二四卷一〇号(二月)
- 書評 「沼田稲次郎著『団結権擁護論』(上・下)」法律時報二四卷一〇号(二月)

その他 「学会消息／労働法学会」一橋論叢二八巻一号（七月）

一九五三年（昭和二八年）

論文 「ロックアウトの法理」季刊労働法九号（九月）

書評 「ニキッシュ『労働法』」一橋論叢二九巻四号（四月）

座談会 「ロックアウトの正当性とその限界をめぐって」季刊労働法九号（九月）

一九五四年（昭和二九年）

論文 「ロックアウトの法理と実際」峯村・有泉・沼田編『専門講座労働法』四集（労働法懇談会）（二月）

判例研究 「組合の同意を経ないでなされた就業規則中の賞与規定の変更」季刊労働法二一号（三月）

座談会 「西ドイツにおける労働争議」討論労働法三〇号（八月）

「日本海重工業仮処分事件」（報告）討論労働法三三号（二月）

「次官通達に対する研究討論」労働法律旬報一八三号（二月）

一九五五年（昭和三〇年）

共訳書 ジンツハハイマー著『労働法原理』（東京大学出版会）（二月）

論文 「労働関係と雇傭契約・労働契約」(一)・(二) 討論労働法三七、三八号（四、五月）

「ピケット権の防衛—炭労嘉穂労組ピケ事件」労働法律旬報二二三号（九月）

「米国自動車産業における労働協約の実証的考察」学会誌労働法七号（二〇月）

その他 「一橋学問の伝統と反省—民法及び労働法」（八十周年記念企画）一橋論叢三四巻四号（二〇月）

一九五六年（昭和三一年）

論文 「災害補償」講座『労働問題と労働法』五巻（弘文堂）（三月）

「支配介入の性格と構造」季刊労働法二二号（九月）

座談会

- 「組合活動の自由について」討論労働法四八号(三月)
- 「労働契約における労働者の義務の内容」討論労働法五五号(一〇月)
- 「争議行為と損害賠償」討論労働法五六号(十一月)

一九五七年(昭和三十年)

論文

- 「争議行為と労働契約関係」討論労働法五九号(二月)
- 「争議権の保障といわゆる刑事免責」法学研究(一橋大学研究年報)一号(三月)
- 「ロックアウトの法的性質(戦後労働法理の発展)」季刊法律学二三号(四月)
- 「争議権論—歴史および性格」労働法講座三卷『労働争議』(有斐閣)(五月)
- 「通牒の『争議行為』論について」労働法律旬報二七四号(六月)
- 「労働協約をめぐる問題点—組合活動条項」講座『労働問題と労働法』四卷(弘文堂)(六月)
- 「争議権の承認と争議行為の法的評価」『一橋大学八十周年記念論文集』(下)(勤草書房)(九月)
- 「賃金・退職金に関する判例について」『賃金・退職金をめぐる法律問題』(東洋経済新報社)(十二月)
- 「団結権の構造について」討論労働法五九号(二月)
- 「青年部・婦人部の諸問題」討論労働法六三号(六月)
- 「ロックアウト、労務の受領拒否と賃金請求権」労働法学会報二八二号(二月)
- 「外国文献解題(一) A. Cox. Right under Labor Agreement, Harvard Law Review, Vol. 69 No. 4 ほか」学会誌労働法一〇号(四月)

判例研究

座談会

その他

- 「争議権に関する諸家の見解」講座『労働問題と労働法』三卷(弘文堂)(六月)

一九五八年(昭和三十一年)

論文

- 「『正当』争議行為のいわゆる免責、とくに民事免責の意味について—従来の学説の検討を中心として」季刊労働法二八号(六月)
- 「フウィップソウ・ストとロックアウト—米国連邦最高裁の一判決」月刊労働問題二号(七月)

「争議行為のいわゆる民事免責の法構造」一橋論叢四〇巻二号（八月）
 「人事条項とシロップ条項」戦後労働争議実態調査Ⅹ『労働協約をめぐる労使紛争』（中央公論社）（十一月）
 「労働法読書案内」季刊労働法二七号（三月）

「市民法と社会法について」（アンケート）法律時報三八巻四号（四月）

一九五九年（昭和三四年）

共著 『註解労働組合法』（吾妻光俊編、一部執筆）（青林書院）（五月）

『労働組合読本』（東洋経済新報社）（七月）

論文 「フリードリッヒ・カール・フォン・サヴィニー」一橋論叢四一巻四号（四月）

「政治ストの構造と法律関係」月刊労働問題一二号（五月）

「わが国における政治ストの法律問題」学会誌労働法一四号（一〇月）

その他 「外国文献解題（三）Columbia Law Review. Vol. 59 No. 1ほか」学会誌労働法一四号（一〇月）

一九六〇年（昭和三五年）

共著 『註解労働基準法』（吾妻光俊編、一部執筆）（青林書院）（九月）

論文 「雇用および労働契約における労働義務について——賃金債権との関係において——」一橋論叢四三巻一号（二月）

「戦後の日本の労働協約および協約紛争の特質」労務研究一三巻七号（七月）

「わが国における労働時間短縮問題の法的検討」季刊労働法三七号（九月）

その他 「三池争議のある問題点（法令昨今）」時の法令三五一号（五月）（大平善梧編『法学の知恵』（井上書房）〔昭和三年五月〕 転収）

「三池争議第三次あっせん案をめぐる」（法令昨今）時の法令三六三号（九月）（同前）

一九六一年（昭和三十六年）

共著 『公務員の争議手段——国労、全通を中心にして』（日本労働協会調査部、研究資料二八号）（二月）

論文

- 『公務員の争議手段の特質について—国労、全通を中心にして』(日本労働協会調査部、研究資料五六号)(一二月)
「ロックアウト」石井・有泉編『労働法演習』(有斐閣)(六月)
「ロックアウトと職場占拠」(共筆、横井芳弘)労働法学研究会報四五号(七月)
「職場占拠、ロックアウトと占有解除ないし立入り禁止の仮処分」季刊労働法四一号(九月)
「ロックアウトの要件および効果について」法学教室二号(一一月)
「沼田稻次郎『労働法論上』」法律時報三三卷一号(一月)
「三池の差別待遇を見て」月刊総評五六号(一一月)
「三池を見学して—不等差別と組織労働者の『根性』」労働法律旬報四三五号(一一月)

一九六二年(昭和三十七年)

論文

- 「合同労組の団体交渉をめぐる問題点」学会誌労働法一九号(四月)
「組合活動と施設管理権—建造物侵入罪、不退去罪との関連において」労働神奈川一六二号(六月)
「ロックアウト法理の再検討—小倉補給廠事件を素材に」野村平爾教授還暦記念『団結活動の法理』(日本評論社)(六月)

判例研究

座談会

その他

- 「労働者の政治活動・文化活動と組合活動」季刊労働法四六号(一一月)
「労働組合脱退の自由」「協約能力」別冊ジュリスト『労働判例百選』(一一月)
「日本労働法学の方法論と課題」季刊労働法四五号(九月)
「外国文献解題(四) Charles O. Gregory, The Law of Collective Agreement, Michigan Law Review Vol. 57 No. 5 ほか」学会誌労働法一九号(四月)

一九六三年(昭和三十八年)

共著

論文

- 『合同労組の研究』(沼田稻次郎編、一部執筆)(総合労働研究所)(四月)
「労働組合の統制力」石井・有泉編『労働法大系』一卷(有斐閣)(一月)
「事前協議協定」『企業合理化をめぐる法律問題』(東洋経済新報社)(四月)

- 「争議権の歴史と最高裁判決」月刊総評七三号(五月)
 「部分ストをめぐる問題点」労働法学研究会報五三七号(六月)
 「定年」石井・有泉編『労働法大系』五巻(有斐閣)(九月)
 「最高裁の公労協二判決」季刊労働法四八号(六月)

座談会

一九六四年(昭和三十九年)

論文

- 「争議行為をする権利」(共筆)労働法律旬報五四九号(二月)
 「合理化と労使協議制の法律問題」一橋大学一橋学会編『企業成長と法律問題』(春秋社)(三月)
 「スト不参加者の賃金請求権」季刊労働法五二号(六月)
 「ユニオン・ショップの効力」ジュリスト三〇〇号『学会展望』(六月)
 「年次有給休暇の法的性質について」一橋論叢五二巻二号(八月)
 「出向命令と不当労働行為の成否―日立電子事件を中心に」労働法学研究会報五九四号(九月)
 「年次有給休暇制度の法理と現実」日劳研資料六二〇号(一〇月)
 「労働法社会学」の課題と方法―渡辺教授の提言をめぐって」学会誌労働法二四号(一一月)
 「有泉亭『労働基準法』」法律時報三六巻二号(二月)
 「労使関係の近代化と労働法」(四)日本労働協会雑誌六九号(一一月)

書評

座談会

一九六五年(昭和四〇年)

共著

- 『労働事典』(大河内・吾妻編、一部執筆)(青林書院)(三月)
 『労働組合読本(改訂版)』(東洋経済新報社)(一一月)

共編著

論文

- 岩波講座現代法一〇巻「現代法と労働」(働く者の生活と現代法)〔共筆、小川政亮〕(岩波書店)(八月)
 「労働法(法学の成果と課題)」法律時報三七巻五号(四月)
 「争議労働関係の構造と特質」浅井清信教授還暦記念『労働争議法論』(法律文化社)(六月)
 「企業内組合に対する法学的アプローチについて」日本労働協会雑誌七七号(八月)

「日本労働法学における『解釈』論の問題について—日本労働法学の一課題」一橋論叢五四卷三号(創立九〇周年記念号)(九月)

判例評釈

「取引先による組合活動家の解雇と不当労働行為の成否」判例評論八六号(判例時報四二五号)(二月)

「労使関係の近代化と労働法」日本労働協会雑誌七十一号(二月)

座談会

「労働法学の理論と課題」法学セミナー一一七号(二月)

論文

「法思想の実態—組織と個人」岩波講座現代法—三卷『現代法思想』(岩波書店)(一月)

「不当労働行為の主体といわゆる第三者—系列企業の倒産をめぐる」季刊労働法五九号(三月)

「労働基本権の性格」新労働法講座一卷『労働法の基礎理論』(有斐閣)(六月)

「不当労働行為制度」日本労働協会雑誌九一号(一〇月)

「労働法の道しるべ」ジュリスト三四三号の二『新法学会内』(四月)

座談会

「労働法の道しるべ」ジュリスト三四三号の二『新法学会内』(四月)

「学会回顧一九六六年労働法」法律時報三八卷一三三号(一二月)

「学会回顧一九六七年労働法」法律時報三九卷一四号(一二月)

「学会回顧一九六七年労働法」法律時報三九卷一四号(一二月)

「吾妻光俊先生の人と学説」一橋論叢五七卷五号(五月)

「学説回顧一九六七年労働法」法律時報三九卷一四号(一二月)

「法律学の学び方と文献案内—労働法」ジュリスト『新法学会内』(四月)

判例研究

「定年制」「休業手当」別冊ジュリスト『新版労働判例百選』(五月)

「吾妻光俊先生の人と学説」一橋論叢五七卷五号(五月)

「学説回顧一九六七年労働法」法律時報三九卷一四号(一二月)

一九六七年(昭和四二年)

著書

「団交拒否」新労働法講座三卷『団体交渉』(有斐閣)(三月)

「労働組合」有泉亭編『労働法概説』(有斐閣)(三月)

「公務員労働関係の特質」清宮・佐藤編『統憲法演習』(有斐閣)(四月)

「争議行為」の分析」季刊労働法六四号(六月)

「定年制」「休業手当」別冊ジュリスト『新版労働判例百選』(五月)

「吾妻光俊先生の人と学説」一橋論叢五七卷五号(五月)

「学説回顧一九六七年労働法」法律時報三九卷一四号(一二月)

「法律学の学び方と文献案内—労働法」ジュリスト『新法学会内』(四月)

一九六八年(昭和四三年)

論文

- 「交替制労働と労基法の解釈―新行政通達の検討を中心に」労働法学会報七五九号(五月)
- 「労働争議の変容と労使関係」日本労働協会雑誌一一一号(六月)
- 「組合掲示板(組合活動をめぐる労使慣行)」季刊労働法六九号(九月)
- 「就業規則」労働法学会報七八三号(一〇月)

判例研究

- 「組合は脱退組合員に対し脱退前支給した昇給延伸に対する保証金の返還を請求しうる」判例評論一〇九号(判例時報五〇四号)(二月)

書評

その他

- 「社内での政治活動(最近の判例から)」月刊労働問題一二三三号(七月)
- 「片岡昇『現代労働法の理論』法学セミナー一四二号(一月)
- 「ゼミ中心制度の将来」ジュリスト四〇四号(八月)
- 「学会回顧一九六八年労働法」法律時報四〇巻一三三号(一二月)
- 「労働法(外国法入門)」中川・清水編『読書案内法学』(社会思想社)(月)

一九六九年(昭和四四年)

論文

- 「争議行為と責任追求―現時点での問題情況の概観」季刊労働法七一号(一月)
- 「争議行為における民事免責の範囲」労働法学会報七九九号(三月)
- 「労働基本権の制限」「争議行為の態様」「労働協約の効力」「第三者の強制」「就業規則の法的性質」『法律学の基礎知識』(有斐閣)(六月)

判例研究

- 「単産支部の本部からの脱退決議にいわゆる引きさらいの効果が認められるか」判例評論一四〇号(判例時報五六九号)(一二月)

一九七〇年(昭和四五年)

共編著

- 『労働法判例』(有斐閣)(二月)

論文 「三六協定をめぐる一問題点」一橋論叢六四卷六号(二月)

判例研究 「公労法上の団体交渉対象事項」判例評論一四〇号(判例時報六〇二号)(二〇月)

一九七一年(昭和四六年)

著書 労働法実務大系一一巻『労働時間・残業・交替制』(総合労働研究所)(五月)

論文 「労働時間・残業の実態—法律論との関連で」労働法学研究会報九〇二号(五月)

「労働法」『労働保護法』『社会科学大事典』一九巻(鹿島出版会)(五月)

その他 「労働法(法学の学び方と文献案内)」ジュリスト増刊『新法学案内』(四月)

「ローマの思い出」労働法実務大系一一巻しおり№一一(総合労働研究所)(五月)

一九七二年(昭和四七年)

共著 『労働協約読本』(東洋経済新報社)(五月)

論文 「世界のストライキ(イタリア)」季刊労働法八四号(六月)

判例研究 「政治ストにもなうピケと刑事責任」季刊労働法八五号(九月)

「労働基本権」ジュリスト増刊『労働法の判例』(二月)

一九七三年(昭和四八年)

論文 「選挙・政治活動をめぐる法律問題—企業内政治活動の正当性と組織強制」労働法学研究会報九八一号(一月)

「年次有給休暇をめぐる若干の問題」日本労働協会雑誌一六七号(二月)

「労働基本権を制限する労使間の合意は有効か」法学教室(二期)一号(五月)

「年休権をめぐる制度と現実—最高裁年休判決に関連して」(一)〜(三)労働法律旬報八三二号、八三七号、八四〇号(五、七、九月)

「ストライキ権理論の検討」季刊労働法八八号(六月)

「争議行為の正当性」別冊法学セミナー増刊『現代法学事典』三巻(九月)

判例研究 「脱退した組合員に対する組合費の請求とくに組織内の国会議員立候補支援の臨時組合費徴収決議の効力」判例評

座談会

論一六八号(判例時報六八八号)(二月)

「スト権奪還闘争における法理論上の諸問題」労働法律旬報八二九号(三月)

「最高裁四・二五判決の基本性格・問題点」労働法律旬報八三三号(五月)

「公制審答申と公務員の労働基本権」労働法律旬報八四二号(一〇月)

「公制審答申と官公労働基本権」季刊労働法九〇号(一二月)

その他

「労働法」ジュリスト増刊『法学案内』新訂版(四月)

「吾妻光俊先生の御逝去を悼んで」学会誌労働法四一号(五月)

「師吾妻光俊先生の横顔」如水会会報五一九号(七月)

「吾妻光俊先生と労働法学」法学セミナー二二三号(八月)

「教員の長い休み」ジュリスト五四六号(十一月)

一九七四年(昭和四九年)

共編

論文

『労働六法』(駿河台出版社)(四月)

「争議行為のいわゆる刑事免責について」一橋論叢七一巻一号(一月)

「労働協約と就業規則」外尾・片岡編『労働法を学ぶ』(有斐閣)(四月)

「市民法と労働法」沼田稻次郎先生還暦記念(上)『現代法と労働法学の課題』(総合労働研究所)(五月)

「公労法・地公労法」下の争議行為といわゆる刑事免責」労働法律旬報八六四号(九月)

判例研究

「いわゆる年次有給休暇」請求権の性質」ジュリスト増刊『昭和四八年度重要判例解説』(七月)

「争議行為の正当性判断の一般的基準」部分ストと賃金」別冊ジュリスト『労働判例百選(第三版)』(九月)

「特定政党・候補者支持の組合決定とこれにもとづく組合員からの資金徴収の組合決定の効力」判例評論一八八号(判例時報七四九号)(一〇月)

「ジントツハイマー・労働法原理」法学セミナー二二五号付録『法学者・人と作品』(六月)

一九七五年（昭和五〇年）

編書 『労働六法』（駿河台出版社）（四月）（一九八一年〔昭五六年〕）

共編著 『労働法判例（新版）』（有斐閣）（四月）

論文 『労働時間制度改正問題の一考察』学会誌労働法四五号（四月）

「年次有給休暇」松岡三郎編『別冊法学セミナー・判例労働法』（五月）

「労組の施設利用戦術と職場秩序」労働法学研究会報一〇九一号（五月）

「労働法」（翻訳・執筆）『ブリタニカ国際大百科事典』二〇巻（ティーパーエスブリタニカ）（八月）

「中山和久」『争議権裁判の軌跡』法律時報四七卷一三三号（二月）

書評 『賃金と労働法学』季刊労働法九七号（九月）

「同情ストの法的評価と民事責任」労働法学研究会報一一一六号（二月）

その他 「一橋大学と孫田先生」孫田秀春先生米寿祝賀記念論集『経営と労働の法理』（専修大学出版部）（五月）

一九七六年（昭和五一年）

共著 『判例コンメンタール・労働法』I（一部執筆）（三省堂）（四月）

論文 「争議行為の定義ないし意味について」一橋論叢七五卷三号（三月）

「年休拒否事由をめぐる法律問題」労働法学研究会報一一三四号（五月）

「団結権と労働者および労働組合像」季刊労働法一〇〇号（六月）

「正当な争議・組合活動と不利益取扱」峯村光郎編『不当労働行為』（総合労働研究所）（九月）

「争議行為禁止法規といわゆる刑事免責」有泉亨先生古稀記念『労働法の解釈理論』（有斐閣）（十一月）

判例研究 「杵島炭礦問題につき炭労の指令した『統一スト』ないし『同情スト』の正当・不当」判例評論二〇七号（判例時

報八〇七号）（五月）

書評 「有泉亨『労働組合の争議戦術』」日本労働協会雑誌二〇二号（一月）

座談会 「公企体労働者のストライキ権」季刊労働法九九号（三月）

「労働条件と最高裁」労働法律旬報九〇八号（七月）

その他

「発想の原点に誤りが—専門懇意見書批判」労働法律旬報八九六号（一月）

「沼田理論との出会い」沼田稻次郎著作集一卷『日本労働法論』月報（労働旬報社）（三月）

「労働法」ジュリスト増刊『法学案内』（三訂版）（四月）

「学際的研究について思う」季刊労働法一〇一号（九月）

一九七七年（昭和五二年）

論文

「労働組合」有泉亨編『労働法概説（新版）』（有斐閣）（三月）

「就業規則の法的性質と効力」季刊労働法別冊『労働基準法』（六月）

「名古屋中郵判決における公労法一七条合憲論の検討」ジュリスト六四三号（七月）

「公共部門の争議権についての諸提案—必要最少限規制の具体的検討を」兵藤他著『公共部門の争議権』（東京大学出版会）（十一月）

一九七八年（昭和五三年）

論文

「違法争議行為・組合活動をめぐる自力救済の条件と損害賠償」労働法学研究会報一二三三号（四月）

「公共部門のスト権問題解決の方向」季刊労働法一〇九号（九月）

判例研究

「労働基本権—全農林警職法事件、全通名古屋中郵事件」ジュリスト増刊『労働法の判例』第二版（二〇月）

その他

「大学と図書」如水会会報五七三号（一月）

「教育時評」季刊教育法二八号（六月）

「学校教育の拡大」教育法二八号（七月）

一九七九年（昭和五四年）

共編

ジュリスト増刊『労働法の争点』（「労働協約の意義と成立」「ロックアウト」）（有斐閣）（九月）

論文

「休日振替・休日労働命令と就労義務」労働法学研究会報一二五八号（一月）

「争議行為」一節～三節『労働法事典』（労働旬報社）（二月）

座談会 「出張外勤拒否と賃金カット」季刊労働法二二二号（六月）
その他 「俗語と術語」ジュリスト六八二号（一月）
「婦人平等」保護と差別と平等と―問題は前提となるべき実態把握」労働法律旬報九六七・八号（二月）

一九八〇年（昭和五五年）

論文

「大法院判決巡歴／労働法と生産管理の正当・不当」(一)・(二)、「(三) 大衆交渉の正当・不当」(一)・(二) 法学セミナー二九九、三〇〇、三〇一、三〇二号（一、二、三、四月）

「日本の労使関係と労働法の解釈」労働法学研究会報一三〇六号（二月）

座談会

その他

「戦後労働立法見直しの視点」季刊現代の労働二二号（七月）
「八十年代の幕開けに当って」一橋新聞九八五号（二月）

「一橋大学の基盤を築く―中山伊知郎先生を偲ぶ」如水会報六〇三号（七月）

「誠実に生きぬいた大平さん」如水会報六〇五号（九月）

「学際的研究と労働法学」日本労働協会雑誌二六〇号（二月）

一九八一年（昭和五六年）

論文

「労働法の対象」現代労働法講座一卷『労働法の基礎理論』（総合労働研究所）（一月）
「最近における労使の労働時間対策と法的問題」労働法学研究会報一三五六号（三月）
「大法院判決巡歴／労働法《第二期》」ピクエティングの正当・不当」(一)と(四) 法学セミナー三一五、三一六、三一七、三一八号（五、六、七、八月）

「家族手当のスト・カット―最近の最高裁判決を機縁として」季刊労働法二二三号（二月）
「地公法六一条四号による刑事罰の適用―日教組スト事件第一審判決」ジュリスト増刊『昭和五五年度重要判例解説』（六月）

判例研究

「部分ストと賃金―バインミンシン事件」『争議行為の正当性判断基準―新潟精神病院事件』別冊ジュリスト『労働判例百選（第四版）』（八月）

「部分ストと賃金―バインミンシン事件」『争議行為の正当性判断基準―新潟精神病院事件』別冊ジュリスト『労働判例百選（第四版）』（八月）

その他

「労働基本権」、「労働組合」、「団体交渉」法學セミナー三二一号付録『判例ハンドブック労働法』(二月)
「中小企業と労働基準法」労働と経営一九卷七号(七月)
「戦後労働法学と世代論」現代労働法講座六卷「労働協約」(総合労働研究所)しおり№六(九月)

一九八二年(昭和五七年)

論文 「時間外労働規制の流れと現段階」季刊労働法二二五号(九月)
書評 「竹前栄治『戦後労働改革』」日本労働協会雑誌二八三号(二〇月)

一九八三年(昭和五八年)

論文 「専門家委員会における労働組合運動の権利」経済評論別冊労働問題特集号五『結社の自由と団体交渉』(二〇月)
判例研究 「判例回顧労働法」(共筆、石井保雄)法律時報五五卷一号(一月)
「時間内組合活動の賃金カット率が争われた事件で慣行の存在が否認された例」判例評論二九二号(判例時報一〇七三号)(六月)
「本件事案をどんな視点で捉えるべきか」関西電力最高裁判決について」労働法律旬報一〇八三、一〇八四号(一月)

一九八四年(昭和五九年)

論文 「就業規則の改定と労働条件の変更」季刊労働法一三三号(一〇月)
「労働法」(翻訳・執筆)『ブリタニカ国際大百科事典』二〇卷(改訂版)(ティービーエスブリタニカ)(二〇月)
「年次有給休暇」沼田・本多・片岡編『シンポジウム労働者保護法』(青林書院)(二月)
「判例回顧労働法」(共筆、藤原稔弘)法律時報五六卷二号(一月)
「計画休暇と合理的期日内の時季変更権の行使」民商法雑誌九一卷一号(一月)
「時短の意義について」日本労働協会雑誌三〇七号(二月)

その他

一九八五年(昭和六〇年)

- 判例研究 「判例回顧労働法」(共筆、石井保雄) 法律時報五七卷二号(一月)
「入門時遅刻認定制と『始業時刻』の意味」石播東二工場控訴審判決」労働判例四四八号(五月)
座談会 「法学部のゼミナール」『一橋のゼミナール戦後編』下(一橋大学学園史編纂委員会)(三月)
「夢沼ゼミについて」『一橋のゼミナール戦後編』下(一橋大学学園史編纂委員会)(三月)
その他 「一橋における労働法学」一橋論叢九三卷四号(四月)
「ジントツハイマー／労働法原理」伊藤正己編『法学者・人と作品』(日本評論社)(七月)
「一橋と労働法学」『一橋の学風とその系譜』二(一橋大学学園史編纂委員会)(一〇月)

一九八六年(昭和六一年)

- 編著 『企業レベルの労使関係と法』(米国における企業レベルの労使関係と法)「集中的交渉 centralized bargaining と法的規制」(勲章書房)(一〇月)
論文 「労働法制の変動」法律時報五八卷四号(三月)
「労働時間法制改定問題の立法論的考察」労基法研究会第二部会報告の検討」日本労働協会雑誌三二三号(五月)
「久保敬治著『ある法学者の人生 フーゴ・ジントツハイマー』」日本労働協会雑誌三二九号(一一月)
書評 「判例回顧労働法」(共筆、石井保雄) 法律時報五八卷三号(二月)
判例研究 「法学部の草創期を顧みて」『一橋大学学問史』(同刊行委員会)(三月)
座談会 「労働時間の実態と労基法改正の行方」法律時報五八卷七号(六月)
「労働法」『一橋大学学問史』(同刊行委員会)(三月)
その他 「労働法」『一橋大学学問史』(同刊行委員会)(三月)

一九八七年(昭六二年)

- 論文 「労働基準法の変遷と今後の課題」ジュリスト八七五号(一月)
「労働時間立法の課題—中基審建議の問題点」労働法律旬報一一六一号(二月)
「労働組合」有泉亨編『労働法概説(第三版)』(有斐閣)(三月)

その他

「構造変動下の労働・労使関係と労働法原理」季刊労働法一四三号（四月）
「思い出とともに」一橋小平学報九四号（一月）